伝統的な町屋には、先人の知恵と職人技が詰まっています。
それをひもとき、魅力ある店づくり・宿づくりに活かすヒントを学びます。

伝統的町屋の魅力と再生塾

@KOMORO

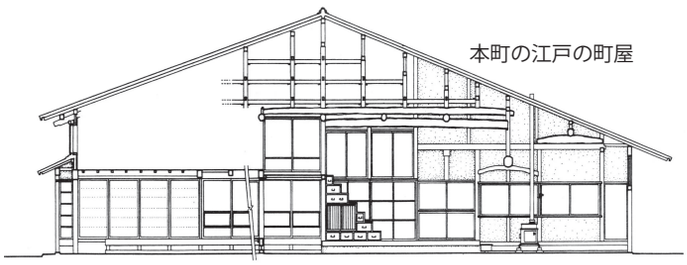
2025 **8/31**（日）、**9/13**（土）、**9/27**（土）

建物見学 13:00〜　座学 14:00〜15:30

会場：北国街道ほんまち町屋館

小諸宿の建物案内
リノベーションの店案内
https://komorotown.wixsite.com/plan

小諸宿脇本陣粂屋（ゲストハウス）



本町の江戸の町屋

8/31（日）❶町屋の魅力を生かした活用例

細長い敷地の町屋や蔵を活かした魅力的で合理的な活用を、小諸＆全国の事例から学びます。小諸宿の伝統的町屋の魅力も紹介。ワークショップによる町屋活用施設のプランニング術も公開。

見学（予定）／北国街道ほんまち町屋館、塩川家

9/13（土）❷伝統的建物の再生いろは

まずは「伝統的建物」とは何かから始まり、その中でも伝統的な町屋の特徴や魅力を学びます。そして、新たな活用を考える上での課題やデザインのポイントをお伝えします。

見学（予定）／脇本陣 粂屋、ほか

9/27（土）❸町屋活用の進め方（事例紹介）

具体的な町屋再生手法の進め方の例を紹介します。そこに必要な費用や職人さんの技術、マネジメント計画のことなども、具体的にお話しできればと思います。

見学／建設中の町屋リノベーション（予定）

第２、３回講師

川上 恵一（一級建築士）

かわかみ建築設計室代表。元信州大学工学部建築学科特任教授。古民家再生の専門家として実績多数。ナワテ通り商店街で国土交通省手づくり郷土賞受賞。塩尻在住。

第１回講師

荻原 礼子（まちづくりプランナー）

長年、小諸の建物調査や小諸のまちづくりにかかわる。町屋館、与良館等の参加のプランニングをプロデュース。総務省 地域力創造アドバイザー。川崎市在住。

建物見学の講師

甘利 享一（一級建築士）

甘利享一建築設計舎代表。古民家再生も多く手がける。脇本陣粂屋の再生で長野県建築文化賞知事賞・日本建築家協会 優秀建築選を受賞。小諸市在住。

要予約　建物見学 20 名、座学 40 名　参加費／１回 1500 円、３回チケット 3000 円　＊座学のみは１回 500 円

申し込み／専用フォーム　またはメール komorojyuku@gmail.com　　問い合わせ／ 090-1200-0239(荻原)

申し込みフォーム

主催／本町区まちづくり推進協議会・市町 (本陣会・裏町会) 有志　協力／ NPO 法人小諸町並み研究会
後援／小諸市、小諸商工会議所、（一社）こもろ観光局、小諸市建築士会　協賛：株式会社 山翠舎　芸術文化振興基金助成事業

小諸宿の町屋

伝統的な建物は、木組みの構造で、自然素材の美しさ、職人の技、先人の知恵と思いがつまっています。
小諸宿の町屋の町並みは、小諸が誇る歴史資産です。

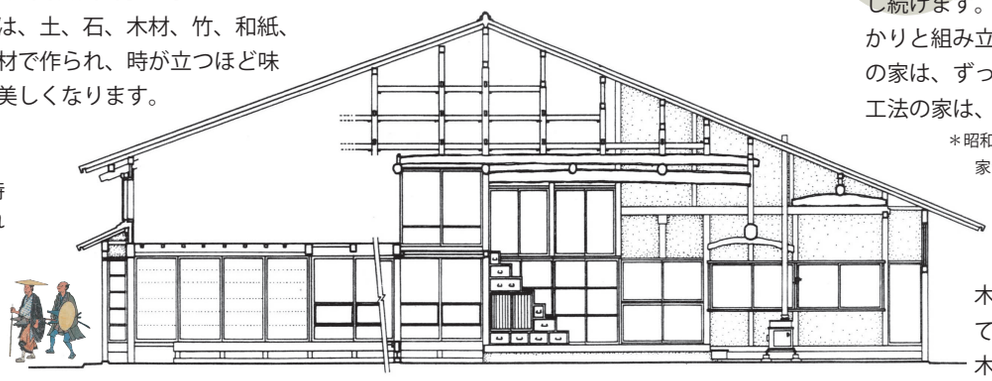
＊「町屋」は商家、「町家」は住宅を表す使い方が多いですが、どちらでも使えます。本町では、「町屋」を使っています。

■伝統建築の利点

味わいが増す自然素材の家

伝統的な建物は、土、石、木材、竹、和紙、などの自然素材で作られ、時が立つほど味わいが増し、美しくなります。

本町の町屋は、道路を広げた時に軒先が切られています。



何百年も持つ木組みの家

木は、切られてから 2〜300 年は強度が増し続けます。木材に切り込みを入れしっかりと組み立てられた伝統工法・木組みの家は、ずっと使い続けられます。他の工法の家は、耐用年数はずっと短いです。

＊昭和 2o 年の法律改正以降、伝統工法での家づくりはできにくくなりました。

直して使える

木組みなので、壁を抜くなどして間取りを変えたりしやすい。木や壁の傷んだところを取り替えれば、ずっと使えます。脱使い捨てで、ゼロカーボンシティに貢献します。

夏、涼しい

屋根が大きく風が抜けるなど、夏を快適に過ごすことを大事にしています。構造を壁に頼らない木組みなので、建具を取り外して開放的に暮らせます。

空間の可変性が高い

建具の取り外しで、部屋の広さを変えられます。
建て増しなども容易です。

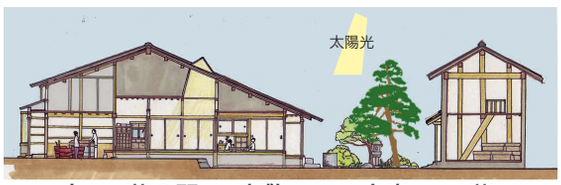
人が寄りやすい

開放的で、縁側や土間などに人が寄りやすくなっています。

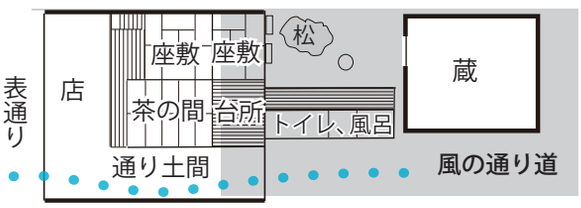
大正時代の本町

■賑わいづくりと暮らしやすさの両立

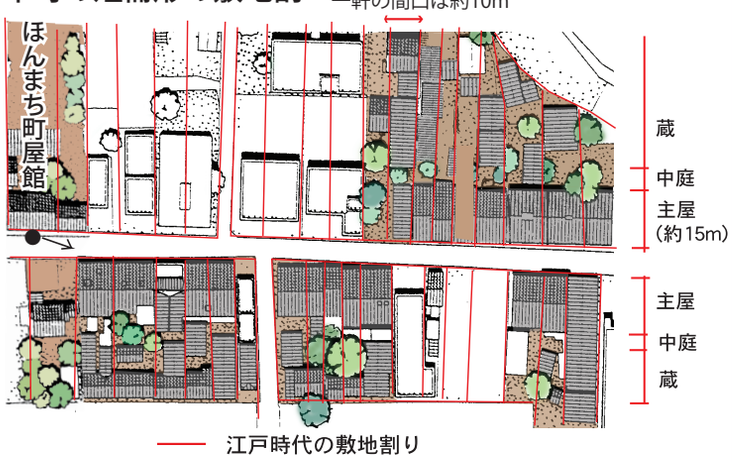
町屋の敷地断面（概念図）



町屋の敷地平面（概念図）



本町の短冊形の敷地割



戦国時代の城下町の建造にはじまり、宿場町の家業や暮らしの中で工夫され大事に使い続けられてきた伝統的な町屋は、小諸が誇る歴史資産です。本町には、その町屋が連続し「歴史的町並み」として残っています。

本町の町並みは、賑わいを生むように、狭い短冊形の敷地がぎっしりと並んでいます。

それぞれに主屋、中庭、蔵が順番に配置され、商売と暮らしを両立させ、奥の蔵では酒や味噌・醤油等を製造する店もありました。

主屋の間取りは、表側が店、次が店にすぐ出られる茶の間、奥に庭に面した座敷が並び、どの家にも蔵に抜ける通り土間があります。

昔の店の軒先は高さが揃っており、表の戸を開け放っていればまるでショッピングモールのようでした。江戸の建物は2階が低く、明治以降は2階は高くなっていきますが、暗黙のルールで店の1階の軒は揃っています。

同じ向きの三角の屋根は、たがいの家の庭の日当たりも大切にしています。

このように、本町の町並みには、互いに協力して「商売しやすく」「暮らしやすい」環境を保ってきました。それが町並みの調和や美しさを生み出し、訪れる人を魅了します。

伝統的な木の家は、大事にすれば百年も二百年も使い続けることができます。

この町並みを活かして新たな商業観光をおこし、次の世代がさらに豊かに暮らせるようなまちづくりをみんなで進めていきましょう。

2025 伝統的町屋の魅力と再生塾　© 本町区まちづくり推進協議会